



▲オスの「ユヅル」



▲メスの「ユカリ」

八木山動物公園フジサキの杜では、トカラヤギの繁殖に向け、3月に鹿児島市平川動物公園から、オスの「ユヅル」とメスの「ユカリ」を迎えました。

トカラヤギは、鹿児島県トカラ列島の宝島と小宝島で飼育されている在来種。ヤギの中でも小型で、背中には縋線まじだと呼ばれる黒い線が特徴です。

2頭は、6月5日に来園者がヤギやヒツジなどの動物と直接触れ合うことができる「ふれあい館」に仲間入り。新たに2頭を迎え、園内のトカラヤギは16頭になりました。「ユヅル」は飼育員を見かけると駆け寄ってきたり、「ユカリ」は来園者の餌やり体験等のイベントで活躍したりと、新しい環境にもすっきり慣れた様子。

元気いっぱい2頭が、皆さんの来園をお待ちしています。

市政トピックス

2頭のトカラヤギが動物園に仲間入り



▲週末に訪れた人たちは初夏の風を感じながら読書や食事を楽しんでいました

市では、町内会やまちづくり団体等で構成される「定禅寺通活性化検討会」と共に定禅寺通の魅力向上に向けた取り組みを進めています。6月15日から、立町エリアの沿道地権者やテナント有志による社会実験「LIVING STREET PROJECT」を実施しています。

この取り組みは、定禅寺通の西側エリアの歩道にテーブルと椅子を設置し、歩道空間を利用したコミュニティの場を創り出すもので、昨年度に続き、行っています。今回は、椅子の数を減らして対面

市政トピックス

ケヤキ並木の下で過ごすひととき ―定禅寺通で社会実験を実施

市では、町内会やまちづくり団体等で構成される「定禅寺通活性化検討会」と共に定禅寺通の魅力向上に向けた取り組みを進めています。6月15日から、立町エリアの沿道地権者やテナント有志による社会実験「LIVING STREET PROJECT」を実施しています。

この取り組みは、定禅寺通の西側エリアの歩道にテーブルと椅子を設置し、歩道空間を利用したコミュニティの場を創り出すもので、昨年度に続き、行っています。今回は、椅子の数を減らして対面

市政トピックス

市政トピックス

国宝「慶長遣欧使節関係資料」を一挙公開

博物館では9月22日まで、旬の常設展「支倉常長帰国400年」を開催しています。

仙台藩祖・伊達政宗の命によりスペイン・ローマへ派遣された慶長遣欧使節の1人、支倉常長の帰国から、今年で400年の節目を迎えます。これを記念し常設展では、慶長遣欧使節の旅をはじめ、仙台藩の外交政策などの視点から、

市政トピックス

市内の障害福祉事業所がデニムマスクを製作

岡山県総社市は、東日本大震災の復興支援として震災孤児の支援を目的とする基金の創設を機に、本市と交流を続けてきました。

総社市では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により仕事が減少した障害福祉事業所が、岡山県産デニム生地を使用したマスクを製作。これが話題となり、20万枚を超えるヒット商品になりました。

片岡総社市長からデニムマスクの製作を勧められたことから、新型コロナウイルスの影響で打撃を受けている障害福祉事業所の収入向上につなげたいと、本市でも製作を開始。5月の販売時には予定枚数を超える申し込みがありました。

1枚1枚丁寧に手作りしたデニムマスクは、肌触りが良く、丈夫と評判です。再度デニム生地が確保できたことから、8月にも販売を行います。予約方法など詳しくは、市ホームページをご覧ください。

デニムマスクの販売は8月10日まで予約受け付け。予定枚数を超えた場合は抽選

問 障害企画課 ☎214・8151

市政トピックス



▲ユネスコ記憶遺産・国宝「慶長遣欧使節関係資料」支倉常長像 仙台市博物館蔵



▲ユネスコ記憶遺産・国宝「慶長遣欧使節関係資料」ローマ市民権証書 仙台市博物館蔵

伊達政宗公や支倉常長と海外とのつながりについて紹介しています。

国内に現存する絵画のうち、実在の日本人を描いた最古の油彩画であり、国宝にも指定されている「支倉常長像」も展示。さらに9月13日まで、特集展示としてローマ滞在中の支倉常長に市民権を与え、貴族に加えることを認めた「ローマ市民権証書」など、ユネスコ記憶遺産3点を含む国宝「慶長遣欧使節関係資料」全47点を6年半ぶりに公開しています。

絵画や古文書など多彩な資料を通して紹介する支倉常長の旅の軌跡を、ぜひご覧ください。

市政トピックス

市内最大の「避難の丘」が完成しました



▲階段やスロープにより頂上部まで駆け上げられる避難の丘。奥に見えるのは、震災遺構仙台市立荒浜小学校

5月27日、若林区荒浜地区の防災集団移転跡地に避難の丘が完成しました。

この避難の丘は、震災遺構仙台市立荒浜小学校の南側に位置し、津波発生時には荒浜地区を訪れた人の緊急避難場所になります。標高10メートル、頂上部は正方形形状で面積約5700平方メートルと市内にある5つの避難の丘の中では最大規模。東西南北に1カ所ずつの階段と、海側から頂上部につながるスロープが設置され、5300人が避難可能となります。

避難の丘が整備されたことにより、多くの人が安心して荒浜地区を訪れ、新たなにぎわいや交流の創出につながることを目指します。

3.11 震災文庫を 読む 33

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本を「紹介します」。

震災を語るといって 小野 和子

「2011.3.11 大地震 大津波を語り継ぐために―声なきものの声を聴き 形なきものの形を刻む」

―胸には民話が残っている 震災の年の7月、「第七回みやぎ民話の学校」が開かれました。もともと民話を伝承する古老を招いて、その昔語りを聞く「学校」で、この年は海岸沿いの語り手から民話を聞く予定でした。しかし、3月11日の大地震と大津波に襲われ、「学校」開催は無理かと諦めかけたとき、家屋敷と田畑を失った語り手の1人が言われたのです。「形あるものは全て津波に持っていかれたが、胸には民話が残っているよ」と。この言葉に励まされて、「学校」を開催し、被災された6人の民話の語り手に、体験した「あの日」を語ってもらいました。



みやぎ民話の会 第七回みやぎ民話の学校実行委員会 編／みやぎ民話の会



隆井 河子・河井 隆共 著 小野 和子 著 早博 編み みやぎ民話の会

―先祖の暮らしの再発見を 「復興」の槌音が響いて、津波によって失われた町が、日々新しく生まれ変わっています。それを見て、「もう一度、故郷を失くしたような気がする」と洩らした被災者の言葉を耳にしました。

「復興」という営みは、新しいものを生み出していくと同時に、そこで連続と続いてきた先祖たちの暮らしを再発見していく営みと共にありたいと思いをしました。この1冊は、その願いから生まれました。

かつての漁師さんをはじめ、閑上で生まれ、そこを故郷として暮らしてきた10人の皆さんからの「聞き書き」です。

この本を開くと、跡形もなく消えた故郷に、また出会うことができるかもしれません。

この本はその記録です。震災から生まれた新しい民話、ここに刻まれています。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問 市民図書館 ☎261・1585